

わたしのいばしょ みんなのいばしょ

～とくしま子どもの居場所づくり～

 2023 



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会



はじめに



令和5年4月に設立された「こども家庭庁」による、こども政策の新たな推進体制に関する基本方針では、「全てのこどもが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、幸せな状態（Well-being）で成長し、社会で活躍していけるようにすることが重要である。」ことを、今後のこども政策の基本理念としています。

社会福祉法人徳島県社会福祉協議会では、これに先立つ令和元年12月、県内の篤志家からの御寄付を基に“とくしま子どもの居場所づくり推進基金”を創設し、子どもたちが安心して参加できる「子どもの居場所」の拡充に向けた資金支援をはじめ、子どもたちと地域住民が交流を深める場の創設などを通じて、地域全体の福祉力向上に努めて参りました。

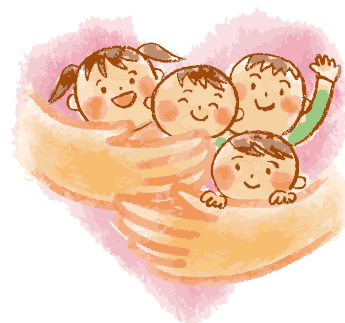
「子どもの居場所」は、身近な地域で、子どもたちのために何かできることはないだろうかという県民のみなさんの思いから生まれてきた取組です。

この冊子は、過疎化の進展やコロナ禍といった子どもたちを取り巻く環境が大きく変化した時期にあっても、前述の基本理念の実現に先駆けて取り組み、子どもたちに寄り添ってきた県内の「子どもの居場所」と「子どもの居場所を支える人々」を紹介しています。

子どもたちが気軽に立ち寄り「ただいま」と言えるもう一つの場所、「今日も楽しかった」「また来たい」と子どもたちが自然に感じる
ことができ、地域の中で「つながる場」「見守る場」「支え合う場」となっている「子どもの居場所」が、この冊子を手にした方からさらに広がって
いくことを願っています。



Contents



04	「子どもの居場所」の社会的意義
05	徳島県における「子どもの居場所」
06	徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン
07	社会福祉法人徳島県社会福祉協議会「子どもの居場所」づくりの推進に向けた取り組み
08	01 社会福祉法人みらい
09	02 NPO法人 XOXO
10	03 マチノワ LIVE
11	04 親子サークルつちからき
12	05 友愛クラブ「ともしび」
13	06 黒崎地区女性会
14	07 なんとにし てとてとて
15	08 子育て応援隊！キッズステーション NARUTO
16	09 一般社団法人ひとみ学舎
17	10 なんと子ども食堂「わくわくキッチン」
18	11 新開放課後子ども教室 ポコ
19	12 居場所カラ・ふる
20	13 子育てグループつくしんぼクラブ
21	14 特定非営利活動法人べんざいてんのお家
22	15 子どもゆめスクエア
23	16 社会福祉法人共生会
24	17 遊び場プロジェクト
25	18 terra小屋
26	19 ニコニコこども食堂
27	20 一般社団法人つなが Mima World Community
28	21 社会福祉法人池田博愛会
29	22 ニシアワ アカデミア
30	23 こども mo おとな mo Wi-Wi 食堂
31	24 すまいるきっず+
32	25 あえるば上勝事務局
33	26 てくてく笑みの会
34	27 森の学校みっけ
35	28 特定非営利活動法人リーフ
36	29 特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート
37	30 子ども食堂スカイ
38	子どもの貧困対策 全国 47 都道府県キャラバン in 徳島 「徳島の子どもの居場所から」実施報告書
42	安全で安心な居場所づくり情報
43	社会福祉法人徳島県社会福祉協議会情報



「子どもの居場所」の社会的意義

現在の地域社会において少子化と過疎化の進展は、子どもとの交流機会の減少や子どもたちを対象とした伝統行事の衰退を招き、世帯規模の縮小や生活様式・生活意識の都市化は、「地域のつながりの希薄化」をもたらす要因となっています。加えて、虐待、ヤングケアラー、ひきこもり、相対的貧困といった「社会的孤立」につながるリスクの増加も懸念されている今日、子どもたちを地域で見守り、寄り添いながら、成長を後押しする「子どもの居場所づくり」への関心は大きく高まっています。

2018年3月時点、県内7カ所（NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ公表資料）で運営されていた「こども食堂」は、2023年7月25日現在、徳島県ホームページで92カ所が紹介されるなど、近年の増加率は一時期全国トップと言われました。

また、徳島県社会福祉協議会における「とくしま子どもの居場所づくり推進基金」による助成対象団体も2020年度の17団体から2023年度は33団体と3年間で倍増し、開設場所も徳島市周辺の都市部から県南・県西部の過疎地域にも広がりを見せています。そしてここで特筆すべきは、この3年間は外出自粛や三密回避など新しい生活様式が求められたコロナ禍であったにもかかわらずということです。この間、居場所を辞めるといった動きは見られず、会食を弁当・食材配付に変更したり、時間制限や屋外開催など感染予防対策を講じながら、閉ざされた環境

にあった子どもたちに対し居場所の本質を発揮し、人と地域のつながりを紡いできました。

まさに「子どもの居場所」は、地域の方々が自発的に行動を起こし、様々な支援団体やボランティアとの輪を広げながら、多様な運営スタイルを構築してきた民間の取組であり、それ故の柔軟性と現場目線での判断の確かさにより、今日、地域の理解を得て、社会的意義を飛躍的に高め、「地域共生社会の実現」における重要な資源として浸透するに至っています。

「子どもの居場所」に足を運ぶと、シニア世代と昔ながらの遊びで世代間交流を深めたり、ボランティアの学生たちが子どもたちと同じ目線で話し合っていたり、年下の子に優しく勉強を教えている異年齢交流の様子がうかがえます。ここでは、子どもたちは、他者とうまくかかわる社会的スキルを育んだり、家族以外のロールモデルや困ったときに話ができる大人と出会います。

また、子どもだけではなく「ワンオペ育児」にある母親が一息ついたり、和やかに談笑できる「子育てにも伴走する居場所」の存在は、産後鬱や育児ストレスの軽減、ひいては「妊娠・出産、こども・子育てに温かい社会をつくる」（令和2年5月閣議決定「少子化社会対策大綱」）という少子化対策の一翼をも担っています。

さらには、虐待、ヤングケアラー、相対的貧困など外部には見えにくい異変やSOSをキャッチしたときに、子どもとの信頼関係を崩さずに関係機関と連携し必要な支援につなげていく「困難を抱えた子どもたちが安心できる居場所」としての役割も期待されています。

このような「子どもの居場所」の運営にかかわる方々と話をしていると、そこは「大人同士の交流も

はじまる場所」であると気付きます。創設者と同じ思いを持つ友人や近所の住人、話を聞いて応援に入ってくれる元教員や元助産師さん、そして活動が始まれば大学生ボランティアや民生委員児童委員、さらには地域の商店街等の協力、そして食事の準備や遊びにはシニア世代も参加するなど、大人と子どもが共にかかわるコミュニティが形成されています。そして、このつながりの輪が将来にわたって持続すれば、「世代を超えた支え合いの循環」も形成されていくと期待されます。

地域の理解と社会的意義を高めた「子どもの居場所」の現場では、今日も「Well-being」を育む活動が続けられています。そこでは子どもたちの感じ方もそれぞれです。「行きたい」「やってみたい」というわくわくした気持ちへのアプローチもあれば「お先にどうぞ」「ありがとう」といった譲り合いや感謝の気持ちが広がる関係性も大切にされています。

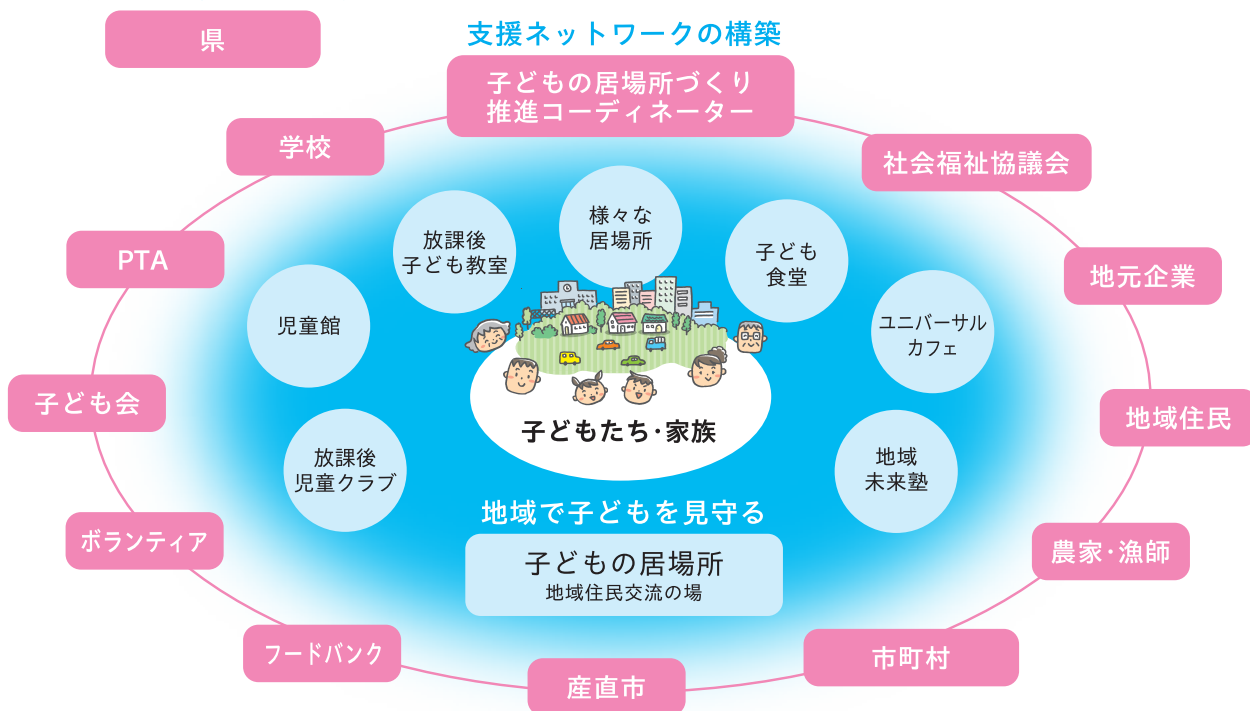
今回、この冊子では県内30の居場所を紹介しています。写真からは子どもたちの笑い声が聞こえてきそうです。そして「子どもの居場所」にかかわる地域のみなさんが、「こどもまんなか社会」の主人公を温かく見守っている姿が目に見えます。徳島県社会福祉協議会では、令和5年3月「第七次活動推進計画～地域共生社会の実現に向けて～」を策定し、「基金の運営を通じて、地域で子どもたちを見守り・育む団体を対象に助成し、子どもたちが安心して参加できる『子どもの居場所づくり』を拡充」していくことを主な取組として位置づけました。「子どもの居場所づくり」への支援は、「誰一人取り残さない地域子育てコミュニティ」の形成に資するものであり、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するものとして、さらなる歩みを加速させて参ります。

徳島県における 「子どもの居場所」

徳島県内にある子どもの居場所には、福祉行政や教育行政の一環として設置されている子どもの居場所（例えば放課後児童クラブや児童館、放課後子ども教室、子育て支援拠点、地域未来塾、子どもの生活・学習支援事

業など）や、民間主導で進められる子どもの居場所（子ども食堂・ユニバーサルカフェ・フリースクール・プレイパーク・子ども会・青少年活動団体など）、そのほかにも様々な居場所が存在しています。

広域的な支援バンクを設置



放課後児童クラブ（学童保育）

保護者が仕事などで、昼間家庭にいない子どもを対象に、放課後に小学校の余裕教室や児童館などを利用して生活や遊びの場所を提供し、子どもの健全な育成を行っています。

対象児童…小学生（利用するために登録が必要です。）

開 所 日…平日・夏休みなどの長期休暇など
開所時間…下校時から午後6時頃（夏休みなどは、1日開所する場合があります。）

※開所日や開所時間は、クラブによって異なります。
問い合わせ…市町村の児童福祉担当課もしくは各クラブ

引 用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト
「とくしまはぐくみネット」
<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

児童館

児童館は子どもたち（0歳～18歳未満の児童）の「遊びの場」として県や市町村が設置しています。

特色は各児童館によって様々で、開館時間や施設の様子、設備や開催イベントなど児童館ごとに違います。広い庭やボール遊びができる遊戯室があった

り、避難訓練や阿波踊り教室を行っている児童館もあります。

児童館では異なる年齢の子どもと一緒に遊ぶので、子どもたち自身の自主性・主体性・創造性・社会性などがはぐくまれます。

引 用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト
「とくしまはぐくみネット」
<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

放課後子ども教室

小学校の余裕教室等を活用して、地域の多様な方々の支援と協力を得て、子どもたちと共に学習やスポーツ・文化活動等の取り組みを行います。具体的な活動内容は各地域によって様々です。

引 用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト
「とくしまはぐくみネット」
<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

地域子育て支援拠点事業

公共施設や保育所、認定こども園、児童館、空き店舗等の地域の身近な場所で、乳幼児のいる子育て中の親子の交流や育児相談、情報提供等を実施する事業です。

引 用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト

「とくしまはぐくみネット」

<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

子ども食堂

「子ども食堂」は、「子どもたちに無料または低価格で食事を提供し、子ども一人でも入れる食堂」であり、地域の多世代交流拠点といわれています。

引 用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト
「とくしまはぐくみネット」
<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

ユニバーサルカフェ （徳島県版ユニバーサルカフェ認定制度）

徳島県では、子ども、高齢者、障がい者、外国人などが集う拠点のうち、一定の基準を満たした拠点を「ユニバーサルカフェ」として認定し、県ホームページや地域情報紙への掲載を通じて、利用者の拡大さらには絆づくりを推進しています。

「ユニバーサルカフェ」は社会福祉法人やNPO法人等が運営しており、集まった全ての人がお互いに「支え」「支えられる」関係性を構築できるように、趣向を凝らした取り組みを実施しています。

引 用…徳島県ホームページ
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/>

徳島県 「子どもの居場所」づくり 推進ガイドライン

令和元年5月29日策定

1 目的

このガイドラインは、徳島県における民間主導により展開する「子どもの居場所」づくりの取組を各地域に広げるため、県民、関係団体、県及び市町村が連携・協力し、持続可能な運営とする仕組みをつくることを目的とする。

2 「子どもの居場所」の定義

「子どもの居場所」とは、地域の大人との継続的な交流ができる、子どもたちにとって安全で安心な居場所であり、信頼関係のもとでの様々な活動を行う中で、すべての子どもたちが夢や希望をもって健やかに成長していける場である。

原則として、18歳に満たないすべての子どもや家庭を、地域で見守る子どもたちの居場所である。

(1)民間主導で進められる「子どもの居場所」

- ・無料または安価で栄養のバランスが良い食事や温かな団らんを提供する子ども食堂・ユニバーサルカフェなど誰もが参加できるもの
 - ・子ども会、青少年活動団体、プレイパークなど
- (2)子どもたちの放課後の生活を支える施策
放課後児童クラブ、放課後子供教室、地域未来塾、児童館、子どもの生活・学習支援事業など
- (3)その他、地域の実情に合わせた多様な「子どもの居場所」

3 「子どもの居場所」の機能・役割

(1)地域の中での「子どもの居場所」

- ・「子どもの居場所」は、子どもの人権に十分に配慮し、子ども一人ひとりの人格を尊重し、子どもに影響がある事柄に関して、子どもが意見を述べ参加できるようにする。
- ・子どもたちに、安心できる居場所を提供し、地域で見守りを行う。
- ・子どもが遊び、学習活動及び読書活動などを自主的に行える環境を整え、必要な支援を行う。

(2)日常の生活支援

- ①子どもの健やかな成長と健康を保障する
- ・食事や学習、会話、レクリエーション活動を通して生活習慣を身に付けたり、周囲の人との関わる力を身に付ける。
 - ・信頼できる大人と活動をともしの中で、自信や意欲、自己肯定感など心理的な安定をはかる。
 - ・「子どもの居場所」が、子どもたちにとって安心できる真の居場所となるよう努める。
- ②社会のルール等を身につける
- ・年齢の違う子どもたちと一緒に遊ぶ機会を提供し、子どもたちが集団で一緒に過ごす中で、協力及び分担や決まりごと等の必要性を理解し、主体的に行動できるようにする。
 - ・手洗いやうがい、持ち物の管理や整理整頓等の基本的な生活習慣が身に付くように支援する。
 - ・子どもたち自身が自分たちで活動を計画したり実行したりする機会をつくり、子どもの自主性や意欲が高められるよう支援する。
 - ・子どもの年齢に応じて、子どもたち自身が調理をする機会をつくり、自分で調理ができるようにする。

(3)共食機会の確保

- ・子どもの孤食や欠食を防ぎ、地域の人々と一緒に食事を楽しむ団らんの機会を提供する。

(3)保護者の子育て支援

- ・仕事などにより時間的に余裕がない保護者に、少しでも子どもと向き合う時間を持ってもらえる工夫を行う。
- ・子育て等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛ける。
- ・仕事などで家庭にいない保護者が安心できるよう、家庭で子どもだけで過ごす時間が少なくなるよう工夫を行う。

(4)配慮を必要とする子どもへの対応

- ・家庭に事情のある子どもの地域における見守りの場として、子どもがより参加できるよう、関係機関や地域などと連携する。
- ・子どもや家庭状況について特別な支援が必要であることの早期発見に努め、把握した場合は、市町村・福祉事務所・児童相談所などの行政機関につなぐ等の対応を行う。

(5)地域の人々と交流できる機会の提供

- ①遊び、学び、触れ合い
- ・製作活動や伝承遊び、地域の文化にふれる体験等の多様な活動や遊びを工夫する。
 - ・子どもが身近なテーマを学び、学ぶことの楽しさを感じる機会を提供する。
 - ・地域の人たちと一緒に遊んだり、食卓を囲んだりして、交流を深める。
 - ・保護者や学校、地域の人たちに活動について理解を深めてもらうため、活動や行事に参加する機会を設ける。

②食育

- ・食事を提供する場合は、栄養バランスを考慮する。
- ・自分で調理をすることで、行事食や郷土料理、地産地消、フードロスなどについて知る機会を提供する。
- ・食文化について知るなど豊かな食を育む機会を提供する。

4 子どもの安全対策・衛生管理など

(1)安全管理・ケガの予防（マニュアルの整備、保険加入）

- ・運営者は、事故やケガの防止に向けた対策や発生時の対応に関するマニュアルを作成する。
- ・運営者は、開設時間中は、現場に常時、責任者を配置する。
- ・運営者は、「子どもの居場所」の安全・安心を高め、様々なリスクに備え、損害賠償保険や傷害保険等に加入する。

(2)衛生管理（食品衛生・アレルギー対策・感染症対策等）

- ・運営者は、手洗いやうがいを励行するなど、日常の衛生管理に努める。
- ・運営者は、調理した飲食物を提供する場合などには、事前に保健所に相談する。
- ・運営者は、施設設備や食事等の衛生管理を徹底し、食中毒の発生を防止する。
- ・運営者は、賞味期限や消費期限を遵守する。
- ・運営者は、飲食物を提供する場合には、食物アレルギーの有無について確認するなど、安全に配慮する。

(3)防災・防犯対策

- ・責任者は、管轄の消防署や警察と連携を図り、

事前に非常口、避難経路及び不審者情報等について確認するなど、子どもの安全確保に努める。

(4)個人情報の秘密保持

運営者は、子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、活動中に知り得た事柄の秘密保持に努める。

5 地域の実情に応じた 「子どもの居場所」づくりの推進支援

地域の実情に応じた「子どもの居場所」づくりを、フードバンク・NPO法人等の民間団体・学校・PTA・地域住民・企業・農家・社会福祉協議会・行政等が連携・協力し、それぞれの立場において主体的に取り組む必要がある。

その取組を、県内各地に広げ、効果的で持続可能な運営とするため、県や市町村は、地域のニーズに応じた支援策を講じる。

(1)「子どもの居場所」を運営したい人への支援

県は、家庭の事情で、放課後や休日等に一人で過ごす子どもたちに居場所を提供する子ども食堂、学習支援及び体験活動などの活動の充実を図るため、運営団体等への支援を行う。

- ・運営メンバー・ボランティア人材育成
- ・開設・運営支援講座（食品衛生・食育）
- ・支援ニーズの把握
- ・先進地域における活動プログラムの調査・分析
- ・一元的な相談窓口
- ・助成金等活用支援

(2)広域的な支援バンクを設置

県は、既存の社会資源を有効活用するための広域的な支援バンクを設置し、市町村等が実施する「子どもの居場所」づくりを推進する取組を支援するため、情報提供や広域的なマッチングなどを行う。

①場所の提供

社会福祉施設、学校の余裕教室、公民館、児童館、商店街の空き店舗など

②食材の提供

企業・商店街・スーパー・産直市・農協・漁協・フードバンクなど

③資金等の提供

企業・団体・個人など

④機会の提供

- ・放課後児童クラブ・放課後子供教室・地域未来塾などと子ども食堂との連携
- ・ユニバーサルカフェ・子ども食堂などでの学習支援など

(3)市町村における支援ネットワークの構築

市町村は、「子どもの居場所」づくりが身近な地域で実施されるよう、活動情報の一元化や公共施設における場の提供など、運営団体等の支援に努める。

①広域的な支援バンクの活用

②運営団体、学校、家庭、地域間の連絡調整

③安全管理体制の整備

福祉事務所・児童相談所・警察・保健所・社会福祉協議会等との連携

④周知・広報

- ・学校・地域住民への理解促進

子どもの貧困対策にとどまらず、すべての子どもと家族の居場所であり、地域の人々が交流する場であることへの理解。

- ・市町村等の広報誌や自治会の回覧による活動予定の周知・協力依頼

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 「子どもの居場所」づくりの推進に向けた取り組み



とくしま子どもの居場所づくり推進事業
マスコットキャラクター「ふあわ」

1

子どもの居場所 づくりに関する “相談窓口”

子どもの居場所づくり推進コーディネーターを配置し、各地域で継続的な交流の場としての「子どもの居場所」の充実・拡充への相談・支援体制を整えています。

2

広域的な 支援バンク

広域的な支援者バンクを設置し、さまざまな活動団体や支援者の訪問等を行い、県内各地の社会資源を集約しています。

3

情報の発信

「とくしま子どもの居場所づくり応援サイト」ホームページやSNS等で活動に関わる情報を発信したり、周知のためリーフレットの作製や啓発パネルの貸し出しを行ったりしています。

4

講座等の 実施

運営者や新たに取り組みを希望する方、応援者・団体の交流の機会や支援の質の向上を図る講座等を行っています。

5

“とくしま 子どもの居場所 づくり推進基金” の創設

子どもたちが安心して参加できる「子どもの居場所」づくりの拡充を図ることを目的とした“とくしま子どもの居場所づくり推進基金”を設置して、「子どもの居場所」に取り組まれる団体を対象に助成を行います。



区分について



居場所の活動を分かりやすくお伝えするために、7つの区分で表記しています。

※各団体の内容は、2022年4月から2023年3月時点の内容です。



01

社会福祉法人みらい カフェスタイル



住 所 徳島市名東町1丁目44番地 代表者 天満 英子

団体の活動目的



近年のコロナ禍で家族で集う場所、安心して遊べる場所が制限・減少しているため、地域の中にあるカフェを開放的に活用してもらえよう、積極的にイベントを開催している。イベント以外でも、学校帰りの子どもたちや地域住民・高齢者の方が気楽に立ち寄れるような場所を目指している。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



主催側は基本の感染対策の実施（手洗い・手指消毒・マスク着用・検温）、店内は常時換気、アクリルパーテーションの設置を行う。参加人数を制限し、密接な空間にならないよう調整を図る。店内飲食は控え、カフェ提供フードやドリンクはテイクアウトにする。

主催側の施設で感染者が確認された場合や県内での感染拡大時は開催を延期した。

実施方法



開催日：毎月第4土曜（状況に応じて変更有）
時 間：11時～12時または13時30分～14時30分
場 所：カフェスタイル

SNSやチラシ、大型ポスターで開催日時や内容を発信。県内で活躍されている講師の方々やパフォーマーの皆さんを招いて、おもちゃや絵本に親しんだり、人形劇やパフォーマンスを鑑賞したり、手話を習ったりとゆったりと楽しいふれあいの時間を過ごす。

専門職員による発育などの子育て相談（事前に相談案件を募る）の場も設けた。

助成金を活用した結果・成果



参加者のお土産や飲食費に充てることができた。調理器具として炊飯器を購入したことでイベント時だけでなく通常のカフェメニューの幅も広がった。

チラシ作成にも活用し広報活動が活発にできたので、新聞記者さんの目に留まることになりイベント取材を受けた。その後、カラー写真とイベント詳細が記事になった新聞掲載につながった。

参加対象

小学校6年生までの
幼児・児童、
その保護者

参加費用

無 料



02

NPO法人 XOXO とくしまみんなの居場所づくり事業



住 所 徳島市沖浜東3丁目60アルファステイツ沖浜201

代表者 竹内 昌夫

Instagram xoxo.kiss.0203

E-mail xoxo20220203@outlook.com

団体の活動目的



地域の人に居場所を提供することにより、地縁・血縁の薄れ等による「孤」の問題の解決の一助とし、また安い値段で食事を提供することによって、貧困家庭を応援することを目的とする。また、家庭の事情で塾に行けない子どもに学習支援も行う。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



衛生面では食品衛生責任者を常に2名配置し、食品の加熱、冷却や、テーブルの殺菌などには特に気をつけている。また、安全面では調理をしているところで子どもが走ったりしないよう、親御さんにも気をつけてもらっている。

実施方法



開催日：毎月、会場の空いている日で月に2回、日曜日に開催。

時 間：ふれあい健康館14時～16時
マツシゲート17時～19時

場 所：ふれあい健康館、マツシゲート

大人も子どもも一緒に食事を楽しめるよう特別な制限をせずに、気軽に集ってもらえるように実施した。

助成金を活用した結果・成果



助成金を活用することで、食材の質を落とさずに購入することができた。また衛生用品もしっかり買うことができ、コロナ対策ができた。

参加対象

だれでも

参加費用

子ども 無 料
大人 300円





▲ オープンディでの絵本の読み聞かせ



▲ 1月うまれの親子の誕生日会

03

マチノワ LIVE 徳島の子育てに伴走する会マチノワ



住 所 徳島市沖浜町大木247 1号棟

代表者 白桃 さと美

TEL 090-4330-2644

URL <https://machinowalive.com/>

団体の活動目的



「孤独孤立」「産後うつ」に悩む育児中の家庭が、徳島の子育て環境のもとに、未だたくさんいる。子育て中の家庭に伴走し、彼らと地域をたくさんの人の輪で繋げ、「共に悩む」共助マチノワ・「支える」先輩マチノワ・「見守る」地域マチノワを目的としている。また、それぞれの輪が混ざり合い、重なり合い、支えあう。そして、親も、地域も、育ち合う活動をする。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



「子育てひろばのための災害対策ガイド」を参考に安全管理マニュアルを作成し、マニュアルに基づいた対応を行っている。また、「徳島県防災・危機管理情報安心とくしま」に基づいた対応や、厚生労働省の情報に基づいた予防対策、ボランティア行事用保険（社会福祉協議会）に加入している。

実施方法



開催日：毎週木・金曜日（祝日休み）

時 間：10時～14時

場 所：マチノワ「みんなのお茶の間」

（徳島県徳島市沖浜町大木 247 1号棟）

マチノワ拠点「みんなのお茶の間」で親子の居場所を開いている。保育士や助産師などの専門職、子育ての先輩ママ、若者やシニアなどの地域の方々などが常駐スタッフとなり、妊婦さんや親子（未就園）を迎える。また、おしゃべり会などの交流の他、子育てがより豊かになるイベント・講座なども開催している。不要になったベビー用品を循環するベビーストックも設置。

助成金を活用した結果・成果



妊娠期から、人や情報とつながる居場所があることで、安心して日常を過ごせている親子が増えた。また、支援とつながっていない、特別なケアが必要な方が来ることもあり、必要に応じて行政や医療などの支援資源とつながっている。

参加対象

妊婦さん・
親子(未就園)
・地域の方

参加費用

無 料



04 親子サークルつちからき 畑のプレーパーク



住 所 徳島市 代表者 児島 久美子 TEL 090-3962-9330 URL <https://ameblo.jp/tsuchikaraki/>
facebook <https://www.facebook.com/tsuchikaraki> Instagram <https://www.instagram.com/tsuchikaraki/?hl=ja>

団体の活動目的



自然の中で自由に安全に遊ぶ場所がない時代の子どもの居場所づくり。屋内の子育て支援施設では、過ごしづらい親子や不登校のお子さんの居場所となる。

実施方法



開催日：月に2回水曜日

時 間：10時～14時頃まで

場 所：自然農園マユコベ（徳島市国府町和田字西ノ宮2）

古民家と菜園を活用し、畑作業や木登り、火起こし、水遊び、工作などの体験活動ができる他、各回のプランでは、染めものや保存食づくりなど、日々の暮らしの中での自然を活用する体験もできる。また、雨水タンクを設置し、雨水をおまごとキッチンで活用するなど、持続可能な暮らしの提案も行っている。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



事前のハザードの除去、スタッフへの講習。保険に加入。原則、野外で活動し、室内を使う場合は、窓を開け換気をする。飲食物は、生食を避け、各自にとりわけ食べるようにする。食べものを提供する場合は、アレルギー対策として利用食材を明記するとともに、参加者への声がけをする。

助成金を活用した結果・成果



毎月の活動資金で場所や講師に謝金を出せることで、持続的な場所作りや活動ができています。



参加対象

妊婦さん、
0才～6才の親子と
小学生

参加費用

材料費
実費のみ



05

友愛クラブ「ともしび」

子どもたちの居場所 ユニバーサルカフェコミュニティはうす TSUDOI



住 所 鳴門市大津町木津野字内田7-10(第一小学校前)

代表者 太田 晴清

TEL 088-685-6177

団体の活動目的



児童の孤食を防ぐため、昼食会を開催。参加児童並びに調理担当者との交流を図ることを目的に実施する。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



施設に入る場合には、マスクを着用し、手指の消毒、検温を行い参加者名簿に氏名と体温を記載して昼食会に参加をしていただいた。

実施方法



開催日：毎月第2、第4土曜日（月2回の実施）

時 間：11時～13時

場 所：ユニバーサルカフェ コミュニティはうす TSUDOI

食事の提供を通して、子どもたちの居場所づくりを実施。メニューについては、児童の希望を取り入れ行った。

助成金を活用した結果・成果



運営経費は、毎月の開催時の運営に充当することができ、子どもたちの昼食会を年間を通して実施することができた。



参加対象

第一小学校
児童
(4年生以上)

参加費用

子ども 200円





06

黒崎地区女性会 みんな集まれ！ふれあい子ども食堂



住 所 徳島県鳴門市撫養町黒崎字清水52-1 黒崎集会所内 代表者 富田 妙子

E-mail 963.jcd@gmail.com

団体の活動目的



少子化、核家族化が進み世代間交流ができる場が日常生活の中から減少している。その一方で、地域の子どものを守り育てようとする地域の方々や一人暮らしで孤独を感じている高齢の方もたくさんいる。そういった地域の年長者との関わりを持ち、その方々の思いやりにふれる機会、また、子どもたちの中にある思いやりの気持ちを引き出し、幅広い地域の方々との交流の場を提供する。

実施方法



開催日：月1回日曜日

時 間：11時～14時

場 所：黒崎集会所

黒崎地区女性会が中心となり、小学校や自治会の定例会議でお知らせして開催している。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



新型コロナウイルス感染対策として、入り口での検温と消毒、テーブルの間隔を開けるなどして開催した。集会所での開催のため、保健所の届ができていた施設で調理している。

助成金を活用した結果・成果



助成金を活用したことで定期的な開催をすることができ、子どもたちの居場所ができてきた。お友達と誘いあって自転車で来るようになった。子どもたちの地域の居場所として広がっている。

参加対象

だれでも

参加費用

子ども 無 料
大 人 300円





▲ クッキング教室「給食メニューをつくらう」

▲ 段ボールジオラマで災害時の避難場所の確認。

▲ ボードゲームでみんななかよく遊んだ。

07 なるとなしてとてとて こどもふれあいひろば



住 所 鳴門市鳴門町高島北86 鳴門公民館

代表者 佐々木 由紀

E-mail 761024tetete@gmail.com

団体の活動目的



「大人と子どもと地域をつなぐ」ことを目的に、地域の中で顔見知りの人を増やすことができる活動を「毎月継続」して開催してきた。そのような繋がりが、子どもの居場所を含めた普段の生活のみならず、防災や防犯につながると考えて活動している。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



参加者は検温をし、マスク着用、手指消毒を徹底、毎回参加者名簿と連絡先を公民館に提出する。机や椅子、準備物等は毎回消毒を徹底する。(公民館のチェック表を活用)。換気を十分ににする。

実施方法



開催日：毎月最終日曜日

時 間：10時30分～12時

場 所：鳴門公民館（鳴門市鳴門町高島北 86）

ボードゲーム、工作、防災教室、クッキング、読み聞かせ、各種イベント

助成金を活用した結果・成果



こどもふれあいひろばで多種多様な企画を運営し、どのような企画が地域に受け入れられるのかを試すことができた。ボードゲームや囲碁ボール、工作系企画では小中高、異年齢の子どもたち、保護者や地域住民もまじえて和気あいあいとした交流が生まれた。防災をテーマにした企画では調理や防災士によるワークショップ、防災連絡カードの作成を行ったが、地域小学校教諭の参加もあり、小学校との連携を図ることができた。地域の方が講師になった調理実習では参加した親子や高校生大学生、地域の大人が、楽しく自然に距離を縮めていく様子がみられた。地域の「ふれあい広場」での活動も、防災備蓄食の試食や防災を考えるためのダンボールジオラマの展示説明など地域の大きな課題である防災について、幅広い年代の方と子どもたちが一緒の場で学び、感想や意見を交換する場になった。

参加対象

だれでも

参加費用

無 料



08 子育て応援隊！キッズステーション NARUTO 子どもふれあい食堂 NARUTO



住 所 徳島県鳴門市鳴門町高島字北577 代表者 山本 恵美 TEL 088-683-6878
E-mail cs-naruto@md.pikara.ne.jp

団体の活動目的



核家族化が進むなか、高島町は新興住宅地で共働きの家庭や単身赴任、離婚などの理由でシングルで子育てされている家庭も見受けられる。子どもたちの夕食時間は遅くなり、健全な生活リズムを形成するための支援が必要だと考えた。また安心して集える場所も無いため、学習スペースをつくり居場所を提供する。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



新型コロナウイルス感染対策として、飲食スペースが密にならないよう、お弁当の持ち帰りをするなど工夫した。入り口では体温の計測と消毒を徹底し、各テーブルには消毒を設置している。ボランティアスタッフも最小限の人数にして調理している。

実施方法



開催日：月1回水曜日
時 間：16時～19時
場 所：コミュニティーカフェ sama-sama
キッズステーション併設カフェスペース
夕食を提供する子ども食堂

助成金を活用した結果・成果



助成金を活用したことでたくさんの子どもたちに美味しい夕食を提供することができた。特に支援を必要としている子どもたちにはフードパントリーや宅配することもできた。遅くまで働く保護者が増えてきている中、子どもたちだけで気軽に夕食を食べに来られる居場所が子育て応援に繋がっている。

参加対象

だれでも

参加費用

子ども 無 料
大人 300円





▲ 近くの河川敷にいてみんなで遊ぶ



▲ 体を使った室内ゲームを楽しむ

09 一般社団法人ひとみ学舎 居場所の会



住 所 鳴門市大津町吉永130-2 **代表者** 居上 公美子

URL <https://hitomigakusya.wixsite.com/hitomigakusya>

E-mail hitomigakusya@gray.plala.or.jp

団体の活動目的



既存の社会の中で生きづらさを感じている子どもや大人に対して、彼らが自分の特性に気付き、それをいかして他者と一緒に自分らしく生きていくための支援をすることを主たる目的とする。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



事前の下見やスタッフの事前・事後の打ち合わせを徹底する。活動場所がひとみ学舎以外の場合は、事前の下見を行い、避難場所等を確認してスタッフや参加者に事前に周知する。(ひとみ学舎にて開催の場合は第一小学校が避難場所となる。)参加者に対して体調についての聞き取りや検温を行う。参加者やスタッフの連絡先を把握しておく。

実施方法



開催日：毎月第3土曜

毎週木曜日（美術に特化した居場所の会）

時 間：第3土曜日 13時～16時

毎週木曜日 15時～18時

場 所：主な活動場所：ひとみ学舎

子どもや保護者（大人）たちのしたいことを提案し合って、ひとみ学舎や公園、海岸や山等で楽しむ。

少人数でゆったりとした時間配分で活動したり、子どもと年齢の近いボランティアに来てもらったり、多様な活動を実施することで自由に安心して活動できるようにする。

保護者（大人）同士で活動したり、子どもと一緒に活動したり、同じような悩みを抱える保護者（大人）やスタッフと気軽に話したりする等、保護者（大人）も楽しめる場にする。

助成金を活用した結果・成果



毎月の運営に助成金を充当することができ、活動の幅が広がった。このことにより、子どもも保護者も参加しやすくなり、参加者が増加した。



参加対象

既存の学校に
馴染みにくい
子どもたちや大人たち

参加費用

子ども 無 料
大人 500円



10 なんと子ども食堂 「わくわくキッチン」



住 所 鳴門市撫養町齊田字岩崎145 鳴門市斎田公民館
E-mail f6854781@yahoo.co.jp

代表者 脇 景子 **TEL** 090-1322-0272

団体の活動目的



コロナ感染拡大下で活動の場소가減ったり、学童保育や課外活動に属していない子どもたちが、学校休業日に安心安全に過ごせる居場所づくりをする。また子育て中の保護者同士の交流の場や、地域の方と子どもたちの交流の場として、食事やその他時間共有もできるようにする。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



「徳島県防災危機管理情報安心とくしま」に基づいて対応した。また厚生労働省の情報に基づいた予防対策を実施し、受付時の検温、手指消毒、食事時に人数の入れ替えを行った。

実施方法



開催日：毎月原則第4土曜日（第3土曜日の月あり）
月1回開催
時 間：11時受付～14時終了（運営スタッフは準備片付
8時～15時）
場 所：鳴門市 斎田公民館

毎月1回、地元公民館で食事と自由遊び、希望により学習支援や読み聞かせ、囲碁ボールや卓球などの運動系遊びもまじえ、同世代、多世代ともに自由に交流できるよう運営する。また支援物資のフードパントリーも行う。

参加対象

だれでも
（食事数は限りあり）
毎回60食

参加費用

中学生以下 無 料
大人 300 円
（ボランティアしてくれた人 無料）

助成金を活用した結果・成果



運営経費は毎回開催時の食材や居場所づくりのための各種用具文具、絵本等購入、開催案内の作成や配布に充当することができ、今後の自立支援に向けたステップとなった。





▲ クッキングおいしいオムレツができた



▲ 夏のお楽しみ会



▲ みんなでゴーヤを植える

11 新開放課後子ども教室 ポコ



住 所 小松島市大林町金島3-12 代表者 轟 千代 TEL 090-6247-2477

団体の活動目的



子どもたちに安心安全な居場所を提供し、さまざまな体験（食育、環境、自由遊び等）を通して、子どもたちが信頼関係を学び、自分のできることを発見し、なりたい自分になって行くことを目的としている。多様な文化体験や年齢を超えた交流を通して、子どもたちが学び成長していける家庭のような居場所を目指し、地域と連携して子どもたちを支援している。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



マスク着用の徹底や、換気に気をつけること、密を避けるために何部屋かに分かれて活動を行うなどして注意している。また小学校の校庭や、近くの神社の境内で遊ぶなど、戸外での活動を増やしている。安全面では、隣家の間、道路とのあいだに網を張ってボール等が外にでないように注意している。

実施方法



開催日：毎週木曜日放課後、長期休暇中は時間を取ってイベント開催

時 間：毎週木曜日は3時間
長期期間中のイベントは5～8時間

場 所：小松島チャペルや小学校の校庭、体育館、近くのコミュニティセンター等を活用

毎週木曜日に持たれる『子ども教室ポコ』では学習支援や、クッキング、工作、自由遊びを、長期休暇中には「お楽しみ会、うどん大会」など特別プログラムを持っている。また『不登校の子どもを持つ親の会』や専門のカウンセラーを招いての子育てセミナーも開いている。

助成金を活用した結果・成果



助成金を活用して、専門のカウンセラーを招き子育てセミナーを行うことができた。これにより保護者や「不登校の親の会」により影響を与えた。また、隣家や道路との間に網を張ることで、ボールや子どもが飛び出すことがなくなり安全に活動を行うことができるようになった。

参加対象

新開小学校の児童、
特別なイベントは
だれでも

参加費用

1年間の保険費用800円
と、毎月200円のおやつ代、材料費



12 居場所カラ・ふる



住 所 小松島市赤石町13-6 代表者 山本 純 TEL 090-1326-5666
E-mail karafuru2022@gmail.com

団体の活動目的



食育や多世代交流を通じて、生きる力を育てる。地域の子どもは地域で育てる。地域に顔見知りの大人、自分に関わってくれる大人が増えることや、安心できる居場所を増やすことで地域への愛着を育てる。共働き家庭、片親家庭、また忙しい家庭における育児の手助けをする。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



必要に応じてマスクの着用、消毒スプレー・ジェルの使用。調理や食事の前や外から帰った時の手洗い。体温測定や子どもの様子の観察など。

実施方法



開催日：毎週火、金曜日の放課後（祝祭日休）
時 間：14時～18時（夏休みなど10時～16時）
場 所：徳島県小松島市赤石町 13-6

家庭に近い環境の下、県産の食材や有機野菜を使って、「一緒に作って食べる・片付ける」などの食育を中心に、多世代が交流しながら地域の子どもを地域で育てる活動をしている。季節のイベントやお楽しみ会を織り交ぜながら、時にはフードパントリーなどでご家庭の支援もしつつ、子どもたちの日々の活動や成長に関わっている。

助成金を活用した結果・成果



ボランティア活動保険、行事保険、日本スポーツ安全保険などを必要に応じて掛けることができ、安心して活動することができた。開設費用の助成を使って、子どもたちの外遊びの道具や室内遊び用のボードゲーム・カードゲームなどを購入でき、恵まれた遊びの環境を整えることができた。調理器具なども購入し、子どもたちの調理への参加が可能になり、料理を楽しむことができている。総じて、子どもたちのその時々やりたいことに応じて、自由に時間を過ごすことができる環境が整えられてきている。

参加対象

申し込みにより参加登録した小学生、中学生とその家族（未就園児を含む）

参加費用

無 料



▲ 大根の収穫



▲ サイコロゲーム

13 子育てグループつくしんぼクラブ つくしんぼ広場



住 所 阿南市柳島町六反地80-1 代表者 今川 初美 TEL 090-2785-1981

団体の活動目的



子どもは、幸せに生きる権利がある。世代間の交流を密にし、地域全体で子どもの命を守り育てる取り組みを行う。

実施方法



開催日：毎月1回土曜日

時 間：10時～13時

場 所：柳島老人ルームほか

子どもの居場所づくりとして、レクリエーションや農業体験、食事の提供を行う。特別養護老人ホーム阿南荘の協力により、お弁当を低額な料金で販売していただき、参加者に提供する。子どもと地域の高齢者との世代間の交流を図る。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



マスクの着用、手指消毒、参加者の健康チェックを徹底し実施している。

食事の際は、ソーシャルディスタンスを保ち黙食をしている。

子どもたちのアレルギーを事前にチェックし、利用食材を明記している。

助成金を活用した結果・成果



開設経費により、子どもたちと農業体験をするための資材の準備ができた。野菜づくりを通して、子どもたちといっしょに、難しさ、楽しさ、美味しさを体験する事ができた。

参加対象

子ども・保護者・
地域の高齢者等

参加費用

無 料
(2022 年度は無料)

▶ お楽しみ弁当





14

特定非営利活動法人べんざいてんのお家 子育て支援事業



住 所 阿南市柳島町弁財天西1 代表者 吉本 真菜実
E-mail bentenhouse07@gmail.com

URL <http://www.benzaiten-ouchi.com/>

団体の活動目的



子育ての悩みを気軽に話したり、情報交換をしたりする場所が少ないことや、地域の支え合いの中で子育てを協力し合える環境が少ないこと。また、公立学校以外の学校の選択肢が少ないという状況を改善することを目的とする。様々な人が、子育てに関わることで社会全体での子育てを応援する場になると共に、地域共生社会実現のコミュニティスペースとして活用が期待できる。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



屋内でのマスク着用、消毒、及び参加者・スタッフの健康チェックを毎回実施している。食品衛生責任者講習会を受講したスタッフを配置したり、加熱処理を行ったりして、毎食、子ども一人ひとりのアレルギーや食中毒の予防にも取り組んでいる。安全管理マニュアルを作成し、マニュアルに基づいた対応をする。

実施方法



開催日：月1回あたりえべた、月1回聴き合う場
時 間：10時～14時
場 所：べんざいてんのお家

未就学児とその保護者及び学校に行かないことを選択した児童とその保護者、また地域のボランティアの交流の場として拠点となる「べんざいてんのお家」を利用し、季節の手仕事や畑仕事をし、自由な時間を「あたりえべた」で過ごす。また、だれもが今の自分を大事にできる時間を作るための「べんざいてんのお家オープンディ」や「聴き合う場」を開催。

助成金を活用した結果・成果



運営経費は、毎回の開催時の運営に充当することができ、季節の手仕事やクラフトなどをして、思い思いの時間を過ごすことができた。また、「聴き合う場」では今の自分の「気持ち」、だれかの「気持ち」を聴く時間を持つことで心にスペースが生まれ、それぞれの暮らしに戻ったときに、また新しい一歩が踏み出せるような力を生み出すことができたと思う。

参加対象

18歳以下の
子ども、保護者

参加費用

無 料



15 子どもゆめスクエア かもじ食堂



住 所 吉野川市鴨島町鴨島282-1 代表者 山賀 太郎 TEL 090-5270-1005

facebook <https://www.facebook.com/profile.php?id=100064415720554>

団体の活動目的



国際交流の場が少ない吉野川市の子どもたちに、世界中の人々との交流の場を設ける。広い視野を持ち、様々な異文化を体験し、世界に羽ばたける子どもたちを育てる。

実施方法



開催日：令和4年6月19日・9月11日・12月10日
令和5年2月23日

時 間：11時～13時

場 所：鴨島児童館

コロナ禍の中、開催できなかったこども食堂「かもじ食堂」を実施する。スペインパエリア・オムレツ・ベルギーワッフル・南フランス料理ラタトゥイユなど毎回違った海外のお料理を提供した。実際に調理をしたのはその国の方たちであり、NPO 法人眉山大学、吉野川高校生徒の皆さん、地域の方たちの協力のもと、親子が楽しんでもらえる、温かい居場所を作る工夫を行った。



コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



コロナ対策には十分気を付けるため、食堂ではソーシャルディスタンスをとったり、人数制限をしたり、検温・消毒を徹底したりと安全面と衛生面には気を配った。また、暑い日などの食中毒にも配慮し、生ものの提供は絶対に行わず、必ず十分に火を通すように心がけた。食品管理責任者の講習も受講し、スタッフにも共有。エプロン・マスク・三角巾・手袋などの着用も徹底した。

助成金を活用した結果・成果



一年のうちに4回、「かもじ食堂」を開催することができ、親子の喜ぶ顔がたくさん見られた。運営費で食材等を揃えることができ、参加した親子に安心安全に食べてもらえることができた。

参加対象

子育て中
親子

参加費用

子ども 無 料
(18歳まで)
大 人 100 円



▲ お弁当の手渡し



▲ 遊び

16

社会福祉法人共生会 ユニバーサルカフェ「きららカフェ」



住 所 阿波市市場町香美字西原245番 代表者 原 照代 TEL 0883-36-7100 URL <http://kyousei-tokushima.org/>
Instagram https://www.instagram.com/irodori_kagayaki E-mail kagayaki@kyousei-tokushima.org

団体の活動目的



様々な支援を必要とする子どもたちに対して、食事の提供や遊びや体験等ができるイベントへの参加、学習支援、だんらんの場を提供させていただくことで、子どもたちの地域での居場所づくりに取り組む。更には、子どもたちの支援を通して、様々な機関と連携し、子どもたちをサポートすることで、問題の負の連鎖を防ぐセーフティーネットとなることを目的とする。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



既存の「新型コロナウイルス感染症マニュアル」に基づいた対応を行っている。感染対策としては、人数制限や飛沫パネルの設置、室内換気、食事前後の手洗い・手指消毒、テーブル等の消毒等を行っている。食事については「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」を行い、「一般衛生管理マニュアル」に沿った取り組みを行っている。

実施方法



開催日：毎月1回土曜日
時 間：11時～13時30分
場 所：きららカフェ

(徳島県阿波市市場町香美字渡10番地1)

子ども食堂の開催、管理栄養士による献立、手作り体験や遊びコーナー等イベント開催、配慮が必要な子どもの参加や家族からの相談があった場合には、関係機関担当者の参加依頼とサポート連携体制を図る。

助成金を活用した結果・成果



コロナ禍での開催ではあったが、毎回70名近くの方が参加された。運営経費は、食事の提供やキッズコーナーなどの設置や学習支援を行い、予定通り毎月の開催時の運営費として活用させていただいた。3年目の実施となりほぼ定着し、今後子ども食堂等定期的な運営のステップアップとなる。

参加対象

だれでも

参加費用

子ども 無 料
大人1回 500円





17 遊び場プロジェクト プレーパーク



住 所 阿波市阿波町綱懸259-2 代表者 坂本 紗智子

TEL 090-1575-6864

E-mail sotoasobi.sacchan2016@gmail.com

団体の活動目的



地域の子どもたちが、地域住民と関わったり異年齢で群れたりしながら外遊びをすることを通して、子どもたちの「生きる力」を育むこと。また、子どもたちが安心してのびのびと過ごすことのできる、より良い地域づくり・まちづくり。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



毎回開催前には遊び場の安全点検を行うとともに、開催中もスタッフが子どもたちの遊びを巡視し、危険等がないか注意しながら見守る。徳島アラートが4以上になった場合、及び阿波町内の小学校・こども園が感染症により休校になった場合は開催を中止する。

実施方法



開催日：毎月第1土曜日

時 間：9時30分～11時30分

(ただし昼ご飯提供時は13時30分ごろ解散)

場 所：外遊び場さっちゃんち よこ

外遊びを通じた居場所づくりを行うため、毎月プレーパークを開催した。木工作・段ボール工作・シャボン玉・色塗り・砂遊び・昔遊びなどの遊びができるよう準備し、子どもたちが自分の興味に合わせて自由に遊べるようにした。外遊びの指導者（プレーリーダー）を1名配置し、参加した子どもたちの外遊びが拡がり深まるよう、またどの子どもも楽しく安全に遊べるよう支援した。水遊びや火おこし、餅つきなど、季節の遊びも楽しんだ。地域の民生委員の方々にも参加を呼びかけ、地域の方との関わりも持てるようにした。

助成金を活用した結果・成果



感染症の拡大により、子どもたちの遊びには多くの制限がかかっている。そんな中、屋外で子どもたちがのびのびと遊ぶことができ、楽しそうだった。保護者もそんな子どもたちを見守りながら和やかに過ごし、子どもも大人も、毎月の開催を心待ちにしてくれていたようだ。

参加対象

だれでも

参加費用

1家族 100 円



▲ 活動風景(音楽活動)



▲ 活動写真(ゲームの達人)

18 terra小屋 terra小屋の居場所づくり



住 所 阿波市吉野町原 アートビレッジ内 terra小屋スペース

代表者 本城 きよえ

URL <http://terrakoya-ibasyo.com>

団体の活動目的



空き家活用で、複合施設に生まれ変わった場所で、いろいろな大人の中で子どもが生き生きと活動できる場所をつくる。音楽活動や、コミュニケーションが多く取れる活動、また地域の人との活動も企画し、子どもたちの自己肯定感を自然に育てる環境を整える。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



コロナ禍では、人数を縮小し、10名程度を定員とした。「イベントデー」は予約制とし、住所等がわかるように対応した。お昼はほぼテイクアウトとした。検温、消毒、マスクの着用で対応した。

実施方法



開催日：毎月日曜日（不定期）「イベントデー」、長期休みに「オープンデー」

時 間：概ね10時～15時

場 所：阿波市吉野町原アートビレッジ内 terra 小屋スペース、阿波市内の畑、公民館
月に一度の（大体日曜日）「イベントデー」と、長期休みの「オープンデー」を実施する。

助成金を活用した結果・成果



助成金に開設経費が出ることで、施設の環境を整えることができた。また、運営経費でランニングコストを賄うことができ、多様な講師の方も呼ぶことができた。



▲ 食事風景

参加対象

子ども(小学生・中学生)
未就学児は
大人と一緒に参加可

参加費用

子ども 無 料
大人 実 費



19 ニコニコこども食堂



住 所 阿波市阿波町伊沢田88-1 **代表者** 来田 美晴 **TEL** 0883-36-6001

facebook <https://www.facebook.com/nikoniko.kodomo>

団体の活動目的



子どもが地域の人々と一緒に食事を楽しむ機会をつくり、共働きの家庭が増える中で、忙しい親御さんに代わり、子どもたちに手作りの料理を作ることで子育て支援を行う。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



安全管理マニュアルを作成し、マニュアルに基づいた対応を行う。万が一に備えてボランティア行事保険に加入する。消毒、手洗いを徹底する。

実施方法



開催日：毎月 25 日

時 間：18時～19時30分くらいまで

場 所：ショッピングプラザアワーズ内の食堂

ショッピングプラザアワーズの食堂で月一回こども食堂を開く。

助成金を活用した結果・成果



お子さんがたくさんおられるご家庭の利用が増え、子育て支援だけでなく、物価高もあり、経済面の支援も行えた。毎回楽しみに来てくださるお子さんもたくさんいる。

参加対象

子どもと
そのご家族

参加費用

中学生以下 無 料
高校生以上 300円





20

一般社団法人つなぐ Mima World Community つなぐこども食堂、つなぐ教室、つなぐイベント



住 所 美馬市美馬町字寺ノ下104番地 代表者 原田 尚子 TEL 090-5270-9086 URL <https://tsunagumima.wixsite.com/home>
LINE ID @926nlxlr Instagram https://www.instagram.com/tsunagu_mima/ E-mail tsunagumima@gmail.com

団体の活動目的



「人と人をつなぐ居場所づくり、人と世界をつなぐ学びの場づくり、人と未来をつなぐコミュニティづくり」をミッションに掲げ、活動している。子どもを中心とした地域交流・世代交流の機会をつくり、より多くの人々が楽しく幸せに住み続けられるまちづくりを目指している。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



厚生労働省の情報に基づいた感染予防対策を行っている。衛生面では、厚生労働省「こども食堂における衛生管理のポイント」に基づいた対応を行っている。万が一の事故や食中毒に備えて、行事参加者の障害危険補償特則付普通傷害保険に加入しており、全参加者への保険適応が可能である。

実施方法



開催日：第1・2・3土曜日(こども食堂)、第1・3土曜日(つなぐ教室)、イベント(不定期)
時 間：こども食堂 12時~13時、つなぐ教室 こども食堂の前後の時間
場 所：第1・3土曜 美馬町字寺ノ下20(寺町防災交流センター)、第2土曜 脇町大字脇町714-1(サンコー和漢薬局)

こども食堂は大人が調理を行い、併設のフードパントリーでは中高生のボランティアも参加している。つなぐ教室・つなぐイベントでは主に大人が準備・運営を担い、講師を迎えて開催したり、大人がこどもの見守りを行ったりしている。

助成金を活用した結果・成果



「つなぐ教室」において、ものづくりや体験学習を定期的に行うことができ、子どもたちの探究心を高め、創造力を育むことができたと考える。また、「つなぐこども食堂」においては、より多くの子どもたちに食事を提供することができた。子どもを中心とした地域交流・世代交流の居場所づくりに取り組めた。

参加対象

こども食堂は高校生までの子どもと保護者
教室は高校生までの子ども、イベントはだれでも

参加費用

高校生まで 無 料
付き添い大人 300円



21 社会福祉法人池田博愛会 青空



住 所 三好市池田町州津堂面175番地1 **代表者** 松林 真奈美 **TEL** 0883-72-8101
E-mail g-hakuai@ikedahakuai.net

団体の活動目的



核家族やひとり親家族が増えている中で、子どもたちが訪れ、イベント等を通じてみんなと楽しく活動できる場所を目的とする。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



各種マニュアルを作成し、イベントに応じて参加人数の調整を行い、安全面に配慮した運営の徹底を図っている。

実施方法



開催日：月1回
時 間：イベント毎に設定
場 所：地域生活支援拠点青空

ホームページ・チラシ等で広報し、各種イベントを開催する。イベント内容は、音楽コンサートや各種教室、夏祭り等。

助成金を活用した結果・成果



開設経費で音響設備、各種備品の購入に当てることができ、イベントの事業運営に役立った。また、コロナ対策に係る備品の購入に当てることができた。

運営経費は各種イベントの準備、運営時の経費に充当することができ、安定的なイベント開催ができた。

参加対象

だれでも

参加費用

無 料





22 ニシアワ アカデミア 「楽しい食事 つながる食育」



住 所 三好市池田町州津堂面247-1 代表者 国金 重光 TEL 080-3569-4510
URL <https://nishiawaac.wixsite.com/mysite-1>

団体の活動目的



子どもたちが「人と人のつながり」を感じることが
できるような機会をつくることを目的としている。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



アレルギーチェック、換気、手洗い、うがい、こまめな消毒の実施。

実施方法



開催日：不定期
時 間：不定期
場 所：三好市池田町州津堂面 247-1

実際に生産者の方々とお会いして地域農業の歴史と食文化について学び、みんなで美味しいご飯を食べる。

助成金を活用した結果・成果



開設経費でみんなで料理を楽しめるような調理器具を
購入した。食事メニューの選択肢が増えた。



参加対象

3歳～18歳
まで

参加費用

無 料





23

こども mo おとなmo Wi-Wi食堂



住 所 三好市池田町マチ2175

代表者 住吉 千恵美

TEL 0883-72-2131

団体の活動目的



地域の人口減少や高齢化の中、街中で子どもの声を聞き、一緒に話したり、食事したりする。それによって子どもたち同士の親睦、高齢者に対する思いやりの気持ちも持ってもらい、多世代交流の必要さを知ってもらう。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



子どもたちには来る時間を分けてもらい、少人数で来てもらっている。食事管理は、生ものは避け、加熱処理をして、毎回現在はお弁当を渡している。フードパントリー（食品、米、調味料、菓子等提供）も一緒に行っている。

実施方法



開催日：毎月1回第4水曜日

時 間：16時30分～18時

場 所：ぎんざ和団和団

子どもたちの学校、塾、クラブ等の時間によって異なるため、自由に来てもらい「ワークショップ」をしたり、農家、JA、フードバンク、ネットワーク等から提供していただいた食材を使ったメニュー作りをしている。

助成金を活用した結果・成果



お弁当にしているので、べんとうパック等、油、調味料の買い足しができ、今後の運営に向け活用できる様になった。

参加対象

だれでも

参加費用

子ども 100円
大人 500円





▲ 上:餅つき体験
下:お金について

▲ 上:太極拳
下:キックボクシング

▲ SNSの勉強会

24 すまいるきっず+



住 所 三好市池田町マチ2210 代表者 宇津 好子 TEL 080-3928-5113

団体の活動目的



子どもたちの学習支援と、月に一回のイベントでいろいろな体験、勉強をしている。今年度は、実際の生活にも役に立つように銀行の方に講師をお願いして、「お金の勉強会」をしたり、「SNSの取り扱い注意について」の勉強をしたりした。犯罪に巻き込まれないように、ちゃんとした知識を持つことができるように、子どもたちに学んでもらいたいと思う。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



コロナ対策としてマスクの着用、消毒、密にならないように食事の時は開いている部屋を利用するようにしている。調理は、ボランティアさんも含む、かわるすべての者が手洗い消毒の徹底、食物の加熱処理を徹底している。

実施方法



開催日：毎週火曜日

時 間：学校が終わる時間から19時頃まで

場 所：すまいるきっず+

毎週火曜日に宿題をみるなどの学習支援をしている。月に一回はイベントを開催し、子ども食堂を実施している。

助成金を活用した結果・成果



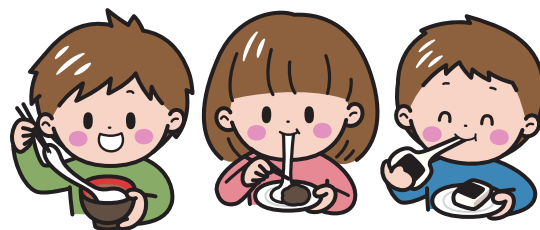
助成金を活用し、毎回、講師の先生をお招きし、いろんな分野の体験ができた。これからもいろんな経験を子どもたちにさせてあげたいと思う。また、備品の購入により、活動部屋をよりきれいで安全な部屋にすることができた。

参加対象

幼児・小学生・
中学生および
その家族

参加費用

無 料





25 あえるば上勝事務局 あえるば上勝

住 所 勝浦郡上勝町

代表者 柿田 恵美



団体の活動目的



上勝町で子育てをしている人、またそれを応援したい人たちをつなげ、参加者相互の親睦を深めて、子どもたちのより良い育ちを応援するための活動を行うことを目的とする。

実施方法



開催日：月1回日曜日

時 間：10時～12時

場 所：町内の山、川、公共施設、店舗、公園など

参加者からの意見を取り入れながら、子どもたちの豊かな育ちにつながる活動をしている。カナダ人ネイティブの講師を迎えた英語遊びや、地元の高齢者との昔遊び、縁日やもちつき、山登り、運動教室などを行っている。



コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



参加対象は上勝町民に限定し、毎回検温、消毒、マスク着用を徹底している。安全管理マニュアルを作成し、スタッフ間で共有し、いざという時に備えている。子どもの自発的な行動を制限することなく安全を確保するため、地元青年会にも協力してもらい、スタッフの充実に努めている。

助成金を活用した結果・成果



コロナの流行により中止になったこともあったが、それ以外は順調に月1回以上のイベントを行うことができています。助成金を活用し、多子世帯に配慮した「1家族500円」を実現できています。親子の横のつながりも強くなり、自発的な集まりや、赤ちゃん世帯の参加も見られるようになってきた。また、町内での認知度も上がってきており、町民の方に声をかけてもらうことも増えた。

参加対象

町内の親子

参加費用

1家族 500円
または 無 料



▲ パン作り教室



▲ ヨガ教室

26 てくてく笑みの会 てくてく子ども食堂



住 所 名西郡神山町下分字栗生野65 代表者 栗飯原 一 TEL 088-677-0745

団体の活動目的



子育て家庭の支援を目的に、子ども食堂やパントリーなどを行っている。

家族同士が情報交換したり、楽しい時間を過ごしたりすることにより、孤立することなく安心して子育てができる環境づくりの手助けを行う。

実施方法



開催日：毎週水曜日のパントリー、月一回の子ども食堂

時 間：17時～19時

場 所：てくてく栗生野

子ども食堂では、スタッフや高学年の子どもたちが一緒に調理したり配膳を行う。

また親子や家族間でのゲームや餅つき、食事を楽しんでいる。

パントリーでは、提供いただいた食材を使って調理し、弁当やおかずを渡す支援を行っている。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



コロナ対策に関しては、感染対策マニュアルに基づき実施している。

防災については、子ども食堂安全対策防災マニュアルを周知している。

スタッフとして看護師が常駐しており、常に食中毒、事故、ケガ予防等の声掛けを行っている。

助成金を活用した結果・成果



開設経費でパン作りに必要なオーブン、発酵器などを購入し、パン作り教室に役立った。またテーブルなども屋外行事などに利用している。

運営経費は毎月のパントリー、子ども食堂の運営に役立っている。



▶ 屋外での食事

参加対象

子ども
保護者
高齢者

参加費用

無 料



27

森の学校みっけ



住 所 名西郡神山町神領 **代表者** 松岡 美緒 **URL** <https://mapisfullofknots.wixsite.com/-site-1>

団体の活動目的



神山の自然の中で「人與人」「人と地球」の繋がりを取り戻す自然体験プログラムを実施することで、大人も子どもも伸び伸びと自己表現できる場をつくる。自己肯定感を育み、生きる喜びを体感できる場を提供する。森の中で食べ物を探したり、地域の自然を生かした遊びを通して「生きる力」に直結した学びを展開する。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



各種、安全管理マニュアルを作成し、マニュアルに基づいた対応を行う。
ボランティア行事保険に加入する。

実施方法



開催日：2022年4/10、5/29、6/25、7/26、8/28、9/17、10/23、11/12、12/4、1/15、2/18、3/11

時 間：9時30分～15時

場 所：森の学校みっけ（神山町神領南上角 247）

地域の苗木屋さんや森作りの専門家たちに知識技術を教わり、森作りの一環として、土壌改良、植樹、薪割といった活動を行う。開催回数：12 回

助成金を活用した結果・成果



開設経費で機材を確保できたことで事業運営に役立った。

運営経費は、毎月の開催時の運営に充当することができ、今後の自立運営に向けたステップとなった。果樹を植えたり、子どもたちと放置されていた農地や森林をメンテナンスしながら遊ぶことで、長期的な子どもの居場所ができてきていると感じる。子どもたちの中には、「大きくなったらこの森を守る、ここで子どもが遊べるようにする。」と 20 年後を想像した発言も聞こえ、今回限りの居場所ではなく、未来の子どもたちへの贈り物だということを、子どもたちと参加者で認識することができた。

参加対象

だれでも

参加費用

無 料





28 特定非営利活動法人リーフ 子どもカフェ



住 所 板野郡板野町大寺字岡ノ前101番地1 代表者 阿部 紀子 TEL 088-660-6789
E-mail stnpftn6266@md.pikara.ne.jp

団体の活動目的



地域の子どもたちとの交流を広げ、学校や家庭以外の安らげる場所、機会を提供する。また、気軽に立ち寄り、友達とおしゃべりをしたり、たくさんの本を読んで楽しく過ごしてほしい。子どもたちにとって「いきつけ」のカフェという存在になれることが理想。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



各種マニュアルを作成し、職員間で徹底し、安全マニュアルの確認を行っている。来店した子どもたちや保護者の方にも検温と手指消毒をお願いし、体調不良がないか問診してから参加してもらうようにしている。喫茶室内も定期的に消毒し、感染や事故を未然に防ぐように努めている。

実施方法



開催日：毎月第3もしくは第4土曜日開催。年12回。
時 間：11時30分～14時
場 所：特定非営利活動法人リーフ 喫茶ハーブ

喫茶ハーブのおすすめ「焼き肉ピラフ」と、自慢のソフトクリーム「まるでミルク」をメインに、子どもたちに無料で提供する。店内飲食か、テイクアウトかは選択できるようにし、感染状況によっては完全にテイクアウトで実施する。

助成金を活用した結果・成果



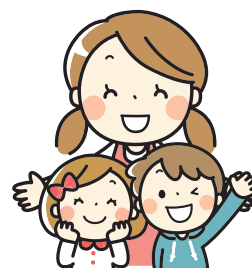
開設経費で、深いシンクの洗い場を増設することができたため、スムーズに調理、後片付けができるようになった。運営経費は、毎回の開催時の運営に充当することができ、子どもたちに「おいしい！うれしい！」と喜んでもらえたのでありがたかった。

参加対象

18歳以下の児童、生徒
小中高生(おもに板野郡内)
1回あたり20名

参加費用

無 料
保護者実費





29

特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート your place プロジェクト



住 所 海部郡牟岐町大字川長字新光寺82 **代表者** 大西 浩正 **TEL** 090-3780-7625 (大西)

URL <https://mugi-career.com/> **E-mail** oonishi.hiromasa.1@gmail.com

団体の活動目的



主に中高生が地域の中に気軽に行けるサードプレイスを提供することにより、孤立を防ぎ、何かあった時にはサポートすると同時に、多様な出会いや経験を届けることを目的とする。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



検温、消毒、体調確認、換気など感染対策の基本事項を徹底するとともに、食品衛生責任者の資格を持つ職員を配置し、共同調理の安全管理を行っている。また、新型コロナウイルスの感染拡大期や運営者内に感染者が発生した際には、牟岐町と協議の上、中止するなどの対応を行った。

実施方法



開催日：原則として、第2・第4の日曜日及び木曜日（令和4年6月以降月4回開催）

時 間：日曜日13時30分～16時、木曜日16時～19時

場 所：令和4年4、8月：牟岐町海の総合文化センター、令和4年6、7月 ui café (民間カフェ)、9月以降 SDGsハウス turn farm

子どもたちが、安心して自由に過ごせる環境を提供するとともに、共同調理を中心としたコンテンツを活動に取り入れることで、参加者間の信頼関係を構築し、ストレスを軽減させる。

助成金を活用した結果・成果



参加した中高生が、スタッフとリラックスして過ごす中で、日々の中の悩みやストレスについて話す場面があった。また、自分の得意をいかして、調理やお祭りへの出展など多様な挑戦をし、様々な年代の人からの賞賛があることで、豊かな学びを提供できた。年度途中から開催回数を月4回程度に増やしたことで、利用者の増加につながった。

参加対象

原則中高生
(小学生も可)

参加費用

無 料





30 子ども食堂スカイ 子どもの居場所作り



住 所 三好郡東みよし町昼間3025-9 代表者 喜多 ルミ代 TEL 0883-87-7560

団体の活動目的



食を通しての子どもの居場所作り・高齢者との交流・学習支援・地域の人との交流。

コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



手指消毒や換気等厚労省の情報に基づいた施策。

実施方法



開催日：毎月第2土曜日

時 間：11時30分～13時

場 所：徳島県三好郡東みよし町昼間 3025-9

お弁当の配布・パントリー・食事を通しての交流。

助成金を活用した結果・成果



予想以上に豪勢なお弁当や食事ができ、「美味しい」と言ってもらえた。また、子どもたちや高齢者のみなさんの素敵な笑顔が見えた。



参加対象

だれでも

参加費用

無 料



2022年10月28日(金)に公益財団法人あすのば主催により
「子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン in 徳島」が
開催されました。

子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 徳島



「徳島の子どもの居場所から」

実施報告書 2022年11月2日作成 公益財団法人あすのば

開催概要

10月28日午後、徳島市で開かれた「子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 徳島」は、「徳島の子どもの居場所から」をテーマに、リアルとオンラインを組み合わせたハイブリット方式で開催され、徳島県内の11の市と町の担当者や子ども・若者の支援関係者ら合わせて72人が参加しました。

主催者挨拶（公益財団法人あすのば）と共催者

挨拶（徳島県）の後、子どもの居場所に詳しい専門家による基調講演が行われ、続いて居場所の経験者や居場所づくりに携わる支援者らがみずからの経験の中でみてきた知見を発表しました。最後に、基調講演の講師をコーディネーターにパネルディスカッションが行われました。その様子は、NHKや徳島新聞、ケーブルテレビ徳島で報じられました。

« 「徳島の子どもの居場所から」子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 徳島 »

【開催日時】2022年10月28日（金）13～16時 【開催場所】徳島県立総合福祉センター5F ホール

【参加人数】72人

【主催】公益財団法人あすのば 【共催】徳島県

【後援】内閣府、国立大学法人鳴門教育大学、社会福祉法人徳島県社会福祉協議会、徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町、特定非営利活動法人ワーカーズコープ 【助成】公益財団法人キリン福祉財団

主催者挨拶（公益財団法人あすのば事務局長 柳瀬和夫）

はじめに、公益財団法人あすのば事務局長の柳瀬和夫が主催者挨拶を行い、こども基本法が来春施行され、市町村ではこども計画の策定が努力義務となることを指摘。その具体策として子どもの居場所が重要な要素になることを強調しました。柳瀬事務局長は、「10月、岸田総理が子どもの居場所を視察し、関連する交付金の補助上限額を大幅に引き上げることを言及していて、政府にも重要視されている」と述べました。





共催者挨拶（徳島県次世代育成・青少年課こども未来応援室 山名由起子室長）

徳島県次世代育成・青少年課こども未来応援室の山名由起子室長が共催者として登壇し、3年前の「徳島県子どもの居場所づくり・推進ガイドライン」の策定以降、官民を挙げて居場所づくりに取り組んできた成果が県内でもあらわれてきていることなど

を指摘しました。そして、山名室長は、「子どもの居場所は、子どもの貧困対策に取り組む上での重要な要素の一つで、今後さらに重要な役割を担うこととなる。官民協働の取り組みをより一層進めていきたい」とあいさつしました。

基調講演（鳴門教育大学・大学院学校教育研究科 木村直子准教授）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科の木村直子准教授が講師を務め、「子どもの貧困対策としての『子どもの居場所づくり』の意義」と題して基調講演が行われました。

その中で、木村准教授は、「家計の不安定」や「孤立」といった子どものリスク要因が、子どもの「食生活不全」や「学力不足」などとして現実化する可否かは、子どもに対する支援の有無が決定的な因子の一つとなることを述べました。その上で、木村准教授は、子どもの居場所について、「誰もが集える場とすることで親子が参加しやすくなり貧困問題

を含む様々な課題に支援を行うための端緒になる」としてその意義を強調しました。さらに木村准教授は、「居場所づくりを継続するためには、活動拠点や運営資金、それに、スタッフの確保を支援するコーディネーターの存在が重要だ」として、居場所の運営者と行政が密に連携していく必要性を訴えました。



居場所を経験した若者の声（筑波大学人間学群教育学類4年 川邊笑さん）

牟岐町出身で、筑波大学4年の川邊笑さんは、中学時代に参加したキャリア教育プログラムの経験を振り返り、家庭でも学校でもない居場所が自身に与えた影響について発表しました。

その中で川邊さんは、「生徒全員が部活動に入るほどスポーツが盛んな中学校で、部活が生活のほぼすべてだったが、ある日頑張れなくなり、部活をやめてしまった」と当時の経験を語りました。

そんな川邊さんに前を向かせたのは、地元出身の大学生らが運営するキャリア教育プログラムでした。



ワークショップや社会人ゲストとの交流会といった、月に1度程度の集まりに参加するようになり、町外の高校に進学後も関わり続けました。ありのままの自分を受け入れてくれる場所で過ごすうちに安心感が生まれ、次第に運営の大学生らにアコがれるようになりました。今では、かつての大学生と同じように、子どもの居場所を立ち上げ、その運営に携わる川邊さん。居場所によって自身の世界が広がり、いつしか新たな試みに積極的に挑戦するようになっていました。

「誰かのためになりたいって自然に思えるようになっていた」。居場所を経験した川邊さんの思いです。

リレートーク①（特定非営利活動法人徳島子ども食堂ネットワーク 佐伯雅子理事長）

リレートーク最初の発表者は、特定非営利活動法人徳島子ども食堂ネットワークの佐伯雅子理事長です。子どもの居場所として近年注目を集める子ども食堂の運営者らが去年設立しました。

まず佐伯理事長は、4年前に7か所だった徳島県内の子ども食堂の数が、ことし9月末時点でおおよそ9倍の62か所となり、コロナ禍を経てもなお増加している状況を紹介しました。そして、子ども食堂のニーズが高まる背景について、地域のつながりの希薄化を挙げ、「子ども食堂が再び地域を結び直す役割を担っている」と指摘しました。その上で、佐伯

理事長は、「すべての子どもたちの徒歩圏内に子ども食堂を設けるためには、小学校区ごとに少なくとも1つの子ども食堂が必要だ」として、参加者に向けて、気軽に子ども食堂に足を運び、活動を後押ししてほしいと呼びかけていました。



リレートーク②（特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート 大西浩正理事長）

次に、川邊さんが参加した教育プログラムの運営を県職員の立場で支援し、県庁を早期退職して若者の伴走支援を行う中間支援組織を設立した牟岐キャリアサポートの大西浩正理事長が登壇しました。

大西理事長は、大学生らが中学生を対象に行ったキャリア教育プログラムの可能性に着目し、その活動をサポートしてきました。その中で、活動を立ち上げた大学生らが卒業を迎える段階で、牟岐キャリアサポートを設



立。属人的になりがちな学生の活動が途切れぬよう、大人の立場でその継続を支えてきました。

そして、大学生らの最初の活動が始まってから8年。かつて、居場所の受益者だった川邊さんらの年代が大学生世代となり、これまでの活動をさらに発展させていく流れが出来てきたといいます。

大西理事長は、「コロナ禍で子どもたちの中で経験量の格差が生じてきている。今後、そこを手当てしていくうえでも、若者たちの活動は大きな力になる」と話していました。

リレートーク③（医療法人秋田会秋田病院 臨床心理士 高川明美さん）

続いて、これまで三好市で長年にわたって不登校や引きこもり状態の若者を支援してきた臨床心理士の高川明美さんが登壇しました。

高川さんは、これまでに三好市で実施された児童生徒を対象にした調査を分析した結果、「心の健康のためには他者に助けを求める力や自己効力感、規則正しい生活リズムなどが重要だとわかってきた」と述べました。その上で、子どもが自己効力感を養い、相談しやすい環境を整えるために、これまで活動してきた仲間たちとともに、広く地域の子どものために開かれた居場所を立ち上げることを決心したという

ということです。高川さんたちは、「心の健康リーダー養成講座」といった催しを開設した居場所で開催し、あえて広く児童生徒に居場所の利用を呼びかけることで、誰もが利用しやすいイメージづくりを行っています。

高川さんは、「居場所事業は費用対効果が見えにくいものだが、子ども期の心の問題はそのまま大人になってからも地域の課題として残り続ける。子どもに対する支援は、地域が抱える問題解決に向けた先行投資だという認識を持って地域の力を結集させたい」と話していました。



リレートーク④ (社会福祉法人徳島県社会福祉協議会子どもの居場所づくり主任コーディネーター 金平和江さん)

リレートークのラストを飾ったのは徳島県社会福祉協議会の金平和江さんです。

金平さんは、3年前、徳島県の子どもの居場所づくりの推進ガイドラインが策定されてまもなく、子どもの居場所づくり主任コーディネーターに就任し、居場所の運営者らを継続的にサポートしてきました。その中で、かつて分散していた支援情報や社会資源を集約する支援バンクの設置に着手。基金による運営経費の助成や利用可能な公民館といった拠点の確保、それに、フードバンクによる食材の提供など、居場所づくりに欠かせない社会資源と居場所運営

者とのマッチングを手がけてきました。ボランティアとして関わりたい地域住民や子ども食堂を利用したい親子などを支援現場につなぐ役割も果たします。

金平さんは、「子どもの居場所に関心がある人は、気軽に相談してほしい」と呼びかけていました。



パネルディスカッション

続いて、パネルディスカッションが開かれ、コーディネーターの木村准教授の進行で、登壇者たちが居場所を立ち上げ、継続していくための方法について意見交換しました。

その中でまずは声を挙げ、居場所を立ち上げたいという思いを周囲に伝えることが大事だという意見が出ました。これについて、徳島子ども食堂ネットワークの佐伯理事長は、企業や団体からの物資や食材などが集まってきていることを紹介し、「ぜひネットワークとつながってほしい」と話しました。また、活動の継続には事務をこなす能力も必要だという

指摘に対し、「似た悩みを乗り越えてきた運営者も多いので、居場所づくりの相談窓口で相談してほしい」という声も上がりました。さらに、自由度の高さゆえに居場所を管轄する行政の担当部署が分かりづらいという課題に対し、様々な関係機関に通じたコーディネーター役の担当者を継続的に配置し続けることが大事だという意見が出ました。

過疎地域では支援を届けることも担い手の確保も難しいという悩みには、自治体の壁を取り払って居場所づくりに携わる個人や団体が連携していくことが重要だという意見が出されていました。

助成団体挨拶 (公益財団法人キリン福祉財団 大島宏之常務理事・事務局長)

最後に、助成団体として公益財団法人キリン福祉財団の大島宏之常務理事・事務局長があいさつしました。大島常務理事・事務局長は、「かつては当たり前だったはずの子どもの居場所は、ともすれば時代の波の中で地域から消えつつある。しかし、今回徳島で居場所づくりに携わる登壇者の方々の思いに触れて、徳島の子どもの居場所が持つ未来に向かう力を感じさせられた。今回のキャラバン

のように、居場所に携わる人々がつながり、連携を深めていくことが、次の一步を踏み出すために大切なことではないか」と締めくくりました。



徳島キャラバンを終えて

世の中には問題が溢れる一方、立ち向かう余力はいよいよ失われています。処理が追いつかないパソコンのように、頭がぐるぐるする毎日。けれど、思いがけない場所で、確実に「他人のために」と心を燃やす若者が育っていました。「月に1度の居場所だって、人を変える力を持っている」。確信に満ちた声を耳にして、希望も感じました。子どもの貧困がない社会の実現に向けて、今できることを着実に進めていきます。どうぞご理解ご協力の程、お願いします。



安全で安心な居場所づくり

情報

相談窓口

徳島県民生委員児童委員協議会 あなたの街の民生委員

(民生委員児童委員協議会の所在地(事務局))

徳島県徳島市中昭和町1丁目2 徳島県立総合福祉センター 3F
TEL.088(654)4461(代) / FAX.088(654)9250

URL http://www.e-fukushi.jp/minkyo/index.php?page=p5_list



徳島県

徳島県未来創生文化部 こども未来局こども家庭支援課 若者・青少年育成担当

徳島県徳島市万代町1丁目1番地 徳島県庁 2階
TEL.088(621)2176 / 088(621)2204
FAX.088(621)2843

URL <https://www.pref.tokushima.lg.jp/kenseijoho/soshiki/miraisouseibunkabu/kodomokateishienka/>



社会福祉法人徳島県社会福祉協議会

徳島県徳島市中昭和町1丁目2 徳島県立総合福祉センター 3F
TEL.088(654)4461(代) / FAX.088(654)9250

URL <https://fukushi-tokushima.or.jp/>



徳島の市町村社会福祉協議会 (徳島県社会福祉協議会)

URL <https://fukushi-tokushima.or.jp/kenshaky/shakyolist/>



徳島県の市町村一覧

URL <https://www.pref.tokushima.lg.jp/kenseijoho/kanrennochiki/shichouson/>



徳島県

徳島県はぐくみ支援ポータルサイト とくしまはぐくみネット

URL <https://www.tokushima-hagukumi.net/>



認定NPO法人 徳島こども食堂ネットワーク

徳島県徳島市南佐古七番町8-30 第2辻マンション101号室
TEL.090(6282)9550 / 090(7708)2922(事務局)
代表 佐伯 雅子様

URL <https://tokushimakodomo.wixsite.com/website>



特定非営利活動法人 フードバンクとくしま

徳島県徳島市昭和町3丁目35-2 労働福祉会館ヒューマンわーくびあ
TEL.088(679)1919 / FAX.088(679)1920

URL <https://foodbank.roukyou.gr.jp/>



大学

国立大学法人 鳴門教育大学

徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地5
TEL.088(687)6000(代)

URL <https://www.naruto-u.ac.jp/>



衛生管理

公益社団法人 日本食品衛生協会

URL <https://www.n-shokuei.jp/index.html>



国

厚生労働省 子ども食堂における衛生管理のポイント

URL https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00381.html



こどもまんなか こども家庭庁

URL <https://www.cfa.go.jp/>



助成金

一般財団法人 チャイルドライフサポートとくしま

徳島県板野郡板野町黒谷字東原33番地5
TEL.088(679)1707 / FAX.088(679)1708

URL <https://cls-tokushima.org/>



とくしま「子どもの居場所づくり」応援サイト

(社会福祉法人徳島県社会福祉協議会)

徳島県徳島市中昭和町1丁目2 徳島県立総合福祉センター 3F
TEL.088(654)4461(代) / 080(8633)1657(直通) / FAX.088(654)9250

URL <https://t-ibasyo.com/>



医療

徳島県

医療とくしま

URL <https://anshin.pref.tokushima.jp/med/>



危機管理

徳島県

安心とくしま (徳島県防災・危機管理情報)

URL <https://anshin.pref.tokushima.jp/>



ボランティア / 保険

とくしまボランティア推進センター ボランティア情報

徳島県徳島市東沖洲2-14 沖洲マリンターミナルビル 1F
(とくしま県民活動プラザ内)
TEL.088(664)8211 / FAX.088(664)5345

URL <https://tokuvc.jp/volunteer/haji.html>



徳島県

徳島県内の子ども食堂について

URL <https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kenko/kosodateshien/7204501/>





徳島県社会福祉協議会は 地域福祉の推進に 取り組んでいます

徳島県社会福祉協議会（社協）は、全国や県内市町村の社協をはじめ、民生委員・児童委員、社会福祉施設などの福祉関係者・関係機関とのネットワークにより、世代や分野を問わない相談や、人と社会がつながり、そして参加できる仕組みづくりを県域で推進するとともに、多様な担い手の確保・育成などを通じた地域福祉活動の普及・促進に努め、「福祉のまちづくり」の実現に取り組んでいます。



社会福祉法人 Tokushima Social Welfare Council

徳島県社会福祉協議会

は **こちら** をご覧ください



自分たちのまちをよくするために
地域福祉活動に参加したい。
あなたの想いは絆となって広がって
いきます。



この冊子は「とくしま子どもの居場所づくり推進基金」を
活用して作成しました。



わたしのいばしょ みんなのいばしょ ～とくしま子どもの居場所づくり～ 2023

2023年10月発行

発行：社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

お問
い合
せ先

〒770-0943
徳島市中昭和町1丁目2 徳島県立総合福祉センター 3階
社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
TEL.088-654-4461（代表）
TEL.080-8633-1657（子どもの居場所づくり担当携帯）

とくしま子どもの居場所づくり応援サイト
<https://t-ibasyo.com/>

